3D HERO® システム

ユーザマニュアル＋製品保証情報

ファームウェア更新

3D HEROシステムは2台の1080p HD HEROカメラを必要とします。3D HEROシステムを使用する前に新しいファームウェアをダウンロードして両方のカメラにインストールする必要があることがあります。両方のカメラのファームウェアを更新する必要があるかどうかを判断するには、カメラの電源を入れ設定メニューに進みます。もし“LCO/LCF” メニューのオプションがSET (設定) メニュー内にあるなら使用中のカメラは最新バージョンですのでファームウェアの更新は必要ありません。

“LCO/LCF”記号が表示されない場合は**gopro.com/firmware**から最新バージョンのファームウェアをダウンロードしてインストールしてください。

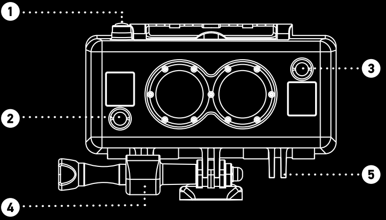
無料で提供されている 3D編集ソフトウェア GOPRO CINEFORM STUDIO™ が必要です

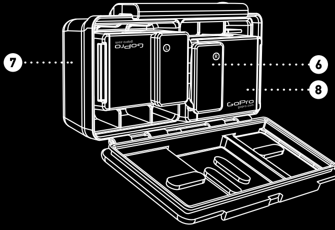
3D HEROシステムは2台の 1080p HD HEROカメラを 3D HERO同期ケーブルを使って合成し、同期したビデオや写真を記録します。カメラには左右の眼で見たような立体的なビデオや写真が記録されます。記録中にはそれぞれのカメラのSDカードには2Dビデオや写真が独立に記録されます。記録された 2 Dファイルを 3 Dに変換するには、無料で提供されているソフトウェアである GoPro CineForm Studio を **gorpro.com/3D** からダウンロードする必要があります。

GoPro CineForm Studioを利用すれば 3D ビデオや写真を簡単に作成することができます。3 Dに変換したいビデオや写真のファイルをインポートして、ボタンをクリックするだけでこのソフトウェアが対になった2Dのファイルを1つの 3 Dファイルに自動的に変換します。3D HERO システムに付属する赤/青 (アナグラフ)を使い、コンピュータや 3 Dをサポートするyoutubeのようなファイル共有サイト、あるいはアクティブ／パッシブ シャッターメガネを利用する 3 D TVで記録した3Dビデオや写真を観ることもできます。

GoPro CineForm Studioは **gopro.com/3D** からダウンロードしてインストールしてください。

3D HERO システム特長



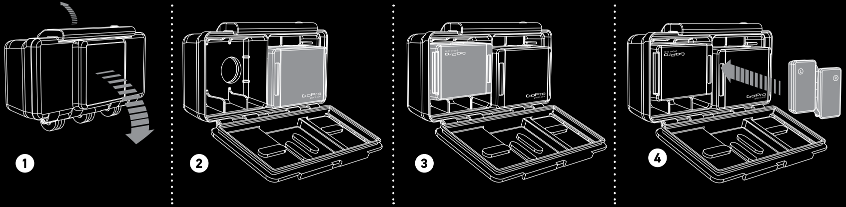


1. 両カメラをコントロールする Master Shutter (マスターシャッター) ボタン
2. 右カメラ Power (電源) ボタン
3. 左カメラ Power (電源) ボタン
4. センターマウントアダプタ
5. マウントフィンガー
6. 3D HERO 同期ケーブル
7. 防水ハウジングケース
8. 2台の1080p HD HERO カメラ (別売) がが必要

HD HERO 3D システムを組み立てる

3D撮像・撮影のために2台のカメラを組み合わせます

注: 3D HEROシステムには2台の 1080p HD HEROカメラが必要です。ファイルの記録には、完全充電した電池と十分なメモリ容量のＳＤカード (GoProはクラス4以上のSDカードの使用を推奨) が各カメラに必要です。各カメラの設定 (例：解像度、露出、記録モード、ビデオフォーマット (PAL と NTSC)) は３D同期が必要です。



3D HEROシステムを防水ケースに格納するには以下の手順に従います：

1. 3Dケースの後ドアを開きます。
2. 「右」カメラ右側を上にしてケースに収めます。
3. 「左」カメラを上下逆にしてケースに収めます。
4. 3D HERO同期ケーブルを両カメラの HERO バスポートに接続します。同期ケーブルの"R"と記されたケーブルを右カメラに、"L" と記されたケーブルを左カメラにそれぞれ接続します。

注：同期ケーブルが接続されると右カメラはUPモードに、左カメラは UPd モードに自動的に変換されます。同期された3Dビデオや写真の撮影にはこの設定が必要です。 3D同期を必要としない場合は、各カメラの設定を異なる UP/ UPd モード、異なる解像度などに手動で変更することができます。ただし、3D撮影には両カメラが同じ解像度とコマ数での撮影に設定されていることが必要です。

5. 3D同期ケーブルが完全に挿入されて、カメラ後部と水平になっていることを確認します。 防水ケースを閉じます。

設定変更後にカメラの3D初期設定に戻りたい場合は、各カメラの電源をOFFにし、同期ケーブルをいったん抜きます。そして同期ケーブスを接続し直してから両カメラの電源をONにします。これで右カメラは UP モード (成立) 、左カメラは UPd モード（倒立）にリセットされ、3Dビデアオや写真の記録が可能になります。

カメラから 3D 同期ケーブスを抜く

HD HEROバスポートから同期ケーブルを抜くには、各3D同期ケーブルのコネクタをしっかりつまみ、本体を均等に持ち上げて、同期ケーブスを HEROバスポートから離します。左右の HEROポートコネクタからケーブルを引き抜かないようにしてください。

3D HERO システムを使う

重要：3Dビデオや写真を記録するには両カメラの解像度と記録モード、コマ数が同一でなければなりません。

ビデオや写真の記録には以下の手順し従います：

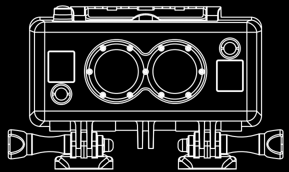
1. 両カメラの電源を入れます。
2. 両方のカメラで、SDカードが入っていること、電池が充電されていること、そして解像度とコマ数が同じに設定されていることを確認します。同期ケーブルが接続されると、右カメラはUPに、そして左カメラは UPdに自動的に設定されます。 これは同期した３Dビデオや写真の記録に必要です。
3. 3D HEROシステムハウジングの上部にあるマスターシャッターボタンを押すと同期した３Dビデオや写真が記録されます 。

追加注意事項：

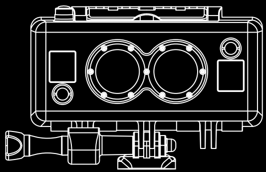
- 同期中は、前面のLCD画面が点滅し、また赤色のLED記録ライトが点滅するときもしないときもあります。これは正常で、カメラがお互いに同期するかどうかには影響しません。
- どちらか一方のカメラで電池残量がなくなる、またはSDカードが一杯になると、両方のカメラでファイルが保存され、ファイル記録は停止します。
- 常に著名ブランドのSDカードでクラス4以上の製品をお使いください。
- 3D HEROシステムはまた、時間経過モードで、2、5、10、30、60 秒毎に３D写真を撮影することができます。３D写真撮影時には1秒間隔の写真撮影はできません。
- ３D時間経過モードで３D写真を撮影するには、両方のカメラのモードを Photo Every “X” (X秒間隔で撮影) モードに変更して ｊ からシャッターボタンを押して撮影を開始します。

マウント構成

重要：3D Heroシステムのマウントには、最大限の安定性が得られるよう、デュアル・クイックリリースバックルを使用することを推奨します。シングル・センター クイックリリースバックルは胸部、ヘルメット、吸引カップなどの身体装着時で振動やインパクトが少ない場合のみに使用することを推奨します。振動やインパクトが大きい箇所でシングル・センター クイックリリースバックルを使用すると、デュアル・クイックリリースバックルに比べ安定性が低下する結果となります。

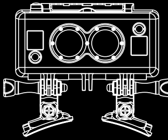


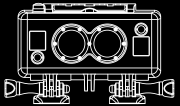
デュアル・クイックリリースバックルを使用すると安定する



シングル・センター クイックリリースバックルを使用すると安定しない

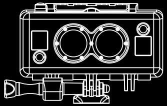
曲面や平面へのマウント

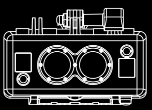




延長アームとクイックリリースバックルは、マウント表面の形状に応じていくつか異なる配向を取って3D HEROシステムをマウントすることができます。たとえば、曲面に防水ハジングをマウントする場合、付属品の延長アームをクイックリリースバックルに取り付けて適切な向きを得ることができます。
注：クイックリリースバックルを接着マウントから離すときは、クイックリリースバックルを均等に押してバックルが引っかかるのを防止します。

ヘルメット前部および胸部マウント





ヘルメット前部マウント：
センターマウントアダプタと蝶ネジを使い、ヘルメット前部マウントをセンターフィンガーに取り付けます。

胸部マウント：
センターマウントアダプタと蝶ネジを使い、曲面クイックリリースバックル(そして角度調整の必要に応じて延長アーム)を防水ハウジングのセンターフィンガーに取り付けます。

注意：インパクトや振動が多い箇所へのシングル・センター クイックリリースバックル使用は推奨しません。

ビデオ録画のヒント

- 最良の結果を得るには、写真モードや720p、960p の設定ではカメラを対象物から少なくとも90cm 離して撮影します。1080pの設定では 視角が狭くなるので、カメラを対象物から少なくとも1.5m 離すと最適です。これらの撮影距離が保てないと左右のビデオファイルが正しく3D整合できなくなり、鑑賞時に目が疲れる結果になることがあります。

注意：推奨距離以内で撮影した画像から３Dを合成すると、再生時に目が疲れることがあります。

- 最良の3Dを得るには、右カメラはUPモード、左カメラはUPdモードに設定します。同期ケーブルは各カメラをUP/UPdモードに自動調整します。

- 両カメラのレンズはともに撮影前にクリーニングします。カメラ間での画像の不一致はホコリや水滴などが原因であり、再生時に目の疲労感を増大させせます。

- 3D HERO システムは異なるビデオ解像度で同時撮像が可能ですが、解像度が異なる映像から3D映像を合成することはできません。また、各カメラの解像度設定が異なると同期できません。

- 防水後部ドアの使用時に曇らないようにするには、3D HERO システムとGoPro の曇り止めインサートを併用してください。

ビデオ/写真 ファイルをコンピュータに転送する

付属のUSBケーブルでカメラとコンピュータを接続してからカメラの電源を入れ、リムーバブルディスク(ＳＤカード)のアイコンを探します。アイコンが見つかったら以下の手順を行います:

1. [リムーバルディスク] アイコンをダブルクリックします。
2. “DCIM”フォルダアイコンをダブルクリックします。
3. 右カメラに収録された画像ファイルはフォルダ名 100G_3D_R に保存されます。
4. 左カメラに収録された画像ファイルはフォルダ名 100G_3D_L に保存されます。
5. 3D同期記録中に作成されたファイルは 3D_L0001 または 3D_R0001 から始まります。

GOPRO CINEFORM STUDIOを使って3D ビデオ/写真を作成する

2D ビデオ/写真を 3Dファイルに変換するには、GoPro CineForm Studioソフトウェアを使用する必要があります。GoPro CineForm Studioとその説明書は**gorpro.com/3D**. から無料でダウンロードすることができます。

重要な安全 + 取り扱い 情報

注意：
安全な取り扱い指示を怠ると、電気ショックなどの負傷事故や 3D Heroシステムやその他の装置に損傷を与えることがありますのでご注意ください。

3D画像の整合が不完全だったり GoPro CineForm Studio ソフトウェアを正しく使用しない場合は眼精疲労や頭痛の原因となることがありますのでご注意ください。

取り扱い

3D HEROシステムには精密なコンポーネントが含まれています。落とす、分解する、押しつぶす、曲げる、変形させる、穴を開ける、刻む、電子レンジに入れる、焼却する、塗装する、3D HEROシステムに異物を入れるなどの行為は禁じます。3D HEROシステムが損傷している場合、たとえば、つぶれた、穴があいた、水で損傷した場合などには使用しないでください。

ケースに収められていないときは、水や湿った場所を避けます

３Ｄ同期ケーブルは雨中や洗面器のそばなどで使用しないでください、またカメラを防水ハウジングに収めていないときは、ぬれた場所で使用しないでください。３Ｄ同期ケーブルには食べ物や液体をこぼさないよう注意します。３Ｄ同期ケーブルがぬれた場合は、掃除をする前にカメラの電源を切り電池をカメラから取り外し、十分に乾燥させます。３Ｄ同期ケーブルを乾燥させるのに電子レンジやヘアードライヤーなどの装置は使用しないでください。液体よる３Ｄ同期ケーブルの損傷は保証対象外ですのでご注意ください。

コネクタとポートを使用する

コネクタを無理にポートに挿入しないでください。ポートに障害物がないか確認します。コネクタとポートが簡単に接続しない場合は、マッチするペアでないかも知れません。コネクタがポートとマッチするペアであることを確認し、正しく挿入します。

製品保証

本製品は、製造上の欠陥に対して最初のご購入日より1年間保証いたします。該当する欠陥に対するGoPro社の保証は、保障期間中に欠陥部品に修理または交換のみを対象とし、GoProの判断により互換品を使用することがあります。本製品の欠陥や損傷が不注意などの結果により発生した場合は、製品保証対象外の交換、販売、その他の取り扱いの例外となります。

使用結果や事故による損傷、通常の磨耗は保証対象外ですのでご注意ください。GoPro社は本製品の使用の結果発生した、事故、人身事故などには責任を一切負いかねます。GoPro社は本製品またはその一部の使用による間接的あるいは直接的な損傷には責任を負いかねます。防水ケースへの水漏れやその結果発生する損傷に対しては、使用者の密閉不具合の可能性があることから、保証対象といたします。

詳細情報については gopro.com を閲覧してください。

Learn about more GoPro products at: **gopro.com**

120-000012-0B Please Recycle.